



大人の愛農留学 AINO STAY Vol.0 テーマ “愛農をほぐす”

2026

ゲスト 青木真兵さん(思想家)

10.16(Fri)-17(Sat)



愛農高校は日本で唯一の私学全寮制農業高校。有機農業を中心とした少人数全寮制の農業高校です。

「AINO STAY」は、愛農高校を開放する体験型プログラム。

愛農高校は文化や環境そのものが「学びの場」です。一般の方が滞在するチャンスは普段なかなかありませんが、「愛農の暮らし」を内側から観て、聴いて、体験できる特別なプログラムです。

こんな方におすすめします

- ☐ 食べること、住むことを考え直したい
- ☐ 循環型社会、自給自足に関心がある
- ☐ いまの暮らしから少し離れたたい
- ☐ 自然の中で自分を見つめ直したい
- ☐ 「小さくて頑丈な暮らし」をしている愛農生から学びたい

主なスケジュール

1日目 10月16日(金)

- 13:00～「とにかくみんなで生きていく」話す人:近藤百(愛農高校)
- 14:00～「合気道的からだづくり」講師:青木真兵
- 16:30～農場見学
- 18:20～夕食
- 19:30～夕会、自己紹介、1日の振り返り

2日目 10月17日(土)

- 06:00～生徒と一緒に農作業
- 07:00～生徒とまざって朝食
- 08:20～朝拝(聖書を読み、賛美歌を歌い、学校の朝の時間を一緒に過ごす)
- 09:30～クロストーク「愛農をほぐす」話す人:青木真兵・近藤百
- 10:30～ぼーっとする時間
- 12:00～昼食・終わりの会

お申し込みフォーム



- 定員 10名(1名から参加可能)
- 対象 18歳以上(高校生以下は別途相談)
- 参加費 1名20,000円

愛農学園農業高等学校
〒518-0221 三重県伊賀市別府 690
TEL : 0595-52-0327
E-mail : info@ainogakuen.ed.jp



詳細情報
ainogakuen.ed.jp/aino-stay/

愛農高校が 「AINOSTAY」を始める理由

愛農高校は63年続く日本で唯一の私立全寮制農業高校です。全校生徒75名が有機農業に取り組み、自給率70%の食卓を自分たちで整えます。

でもふと、思ったのです。保護者や研修生や来客の人たちが口々に「自分が愛農に入学したかった」と言う姿を見て、「高校年代で愛農に出会わなかった人たちに愛農ができることはないか」と。

愛農には「農場」で、「寮」で、「学校」で「暮らし」をつくる日々があります。農業やコミュニティや教育が叫ばれるもっと前から、愛農にはそんなあたりまえの暮らしがあったのです。だからみんなに「愛農生」になってもらえば良いんじゃないか。そうすればきっと僕らも言葉にできない「経験」を持って帰ってもらえるんじゃないか、愛農の目指す「小さくて頑丈な暮らし」を見つけてもらえるんじゃないか。

愛農であたりまえに暮らしてみるのは、きっとあなたと愛農を繋いでくれる。そのつながりが、時には支え、そして支えられる新しい関係を育ててくれるのではないかと思います。

申込締切: 2026年10月6日(火)
<https://forms.gle/CeBWHbzWu2n7qe9D7>



@ainogakuen_official



@ainogakuen



10.16(Fri)-17(Sat)
AINO STAY
Vol. 0
“愛農をほぐす”
guest
青木真兵さん



AINOSTAYでの「合気道的からだづくり」では、対話的な身体をつくることを目指しています。

対話的な身体とは、シグナルをちゃんと受信し、それに適切に応答する「変化する身体」のことです。対話的な身体が受信するシグナルの発信元は、なにも人間だけにとどまりません。山や川、澄んだ空気や湿気、栽培中の果樹や野菜、飼育中の動物など、さまざまなものからシグナルやメッセージが発信されています。しかし現代を生きる僕たちは、受信機としての身体の感度をオフにしてしまっています。そうせざるを得ない要因はいくつもありますが、そのうちの一つは、僕たちがイメージする「大人観」にあると思っています。

現代社会において、「大人」は「社会人」とほぼ同じ意味で使われています。そして社会人とは、自分の労働力を市場に提供し、その対価によって経済的自立を果たしている人のことをいうようです。たいていの人は「就職活動」を経て、社会人へと変容していきます。しかし社会人は、自分の労働力を商品として生活しているため、自分を勝手に変えることは許されず、気付かぬうちに「変化しない身体」をつくりあげていってしまいます。なぜなら商品は、他の商品との比較の上ではじめて価値が決まるものであり、勝手にその規格を外れることは許されないからです。誰に強制されたわけでもないのに、「商品とはそういうものだ」という常識を当たり前のものとして受け入れて生活しているのもまた、社会人の姿だといえます。

愛農学園では自分たちで野菜をつくり、動物を育てながら、共同生活を営んでいます。この極めて高い自給率の暮らしは、自らの労働力を商品に変え、その対価を得ることで成り立っている資本主義経済を前提にしたものとは異なります。むしろ手づくり、修理、微調整といった行為を中心とした愛農学園での生活は、商品化をできるだけ遠ざけています。そういう意味でも、愛農学園で感じられる「小さく頑丈な暮らし」は、頑なで変化しない身体とは相いれないもののなのです。

今回、愛農学園での暮らしを実感するAINOSTAYにおける合気道的からだづくりで伝えたいことは、誰もが自分の中に対話的な身体を有しているということです。このことは、今まで当たり前とされてきた「社会人の規格」を、時には飛び出してしまうほどのパワーが宿るほどの身体エネルギーが、僕たちの奥底に備わっていることに気づくことでもあります。それはこれから新しい「社会」や新しい「大人」を考え、つくりあげていく上で必要不可欠なことだと思っています。

青木真兵

ゲストのご紹介

青木真兵(あおき・しんぺい) 思想家
1983年生まれ、埼玉県浦和市(現さいたま市)に育つ。博士(文学)。社会福祉士。2016年より奈良県東吉野村に移住し自宅を「人文系私設図書館ルチャ・リブロ」として開きながら、対話型組織開発の実践「考古学ラヂオ」や実感を取り戻すための「合気道的からだづくり」、執筆活動などを行っている。著書に『資本主義を半分捨てる』(ちくまプリマー新書)、『武器としての土着思考』(東洋経済新報社)、『手づくりのアジュール』(晶文社)、妻・青木海青子との共著『彼岸の図書館』(夕書房)、『山學ノオト』シリーズ(エイチアンドエスカンパニー)などがある。

人文系私設図書館ルチャ・リブロ
<https://lucha-libro.net/>

今回は2027年から本格的に始まる AINOSTAY の vol.0 として、思想家であり人文系私設図書館ルチャ・リブロキュレーターである青木真兵さんといっしょに「愛農をほぐす」という AINOSTAY を実施します。

青木真兵さんは去年後半から毎月のように愛農を訪れ、愛農のもつ機能や役割を人間的な観点から評価してくださっています。また同じく思想家である内田樹さんの合気道の門下生でもある青木さんは「合気道的からだづくり」を通じて「対話的な身体」をとりもどすワークショップにも取り組んでいます。

今回青木真兵さんの力を借りながら『愛農』を人文的、身体的に「ほぐし」ながら受け取ってもらうなんとも楽しそうな企画になりました。是非ご参加ください。

近藤 百(愛農高校)



AINO STAY
参加者の声

建築をテーマに実施した
プレ企画での声



宿泊や食事があり
生徒の生活を体感した

愛農学園のなりたちや
理念についても
話が聞けてよかった

朝の作業は
貴重な体験だった

印象に残ったのは、
生徒と先生がとても
イキイキされていたこと